第 23 回　機器･配管系検討会　議事録

１．開催日時：平成 19 年 3 月 15 日（木）10：00～１2：00

２．開催場所：日本電気協会　４Ａ会議室

３．出席者：（順不同，敬称略）

委　員：原主査（東京理科大学）、藤田副主査（東京電機大学）、植田幹事・遠藤（原電）、飯田（東北電力）、小江（関西電力）、田村（中国電力）、梅本（四国電力）、吉賀（三菱重工業）、尾崎（富士電機）、中島（東芝）、堀内（原子燃料工業）、江藤（九州電力）（計 13 名）

代理出席：尾西(中部電力・堤代理)、行徳（日立・鈴木代理）、宮田（北海道電力・吉井代理）、中川（東京電力・波木井代理）、梅村（電源開発・岩田代理）（計５名）

欠席委員：上野（北陸電力）（計１名）

オブザーバ：豊田(電中研)（計１名）

事務局：大東（日本電気協会）（計１名）

４．配布資料

資料 No.23-1　第 22 回 機器・配管系検討会 議事録（案）

資料 No.23-2　JEAG4601 第 7 章改定案の審議工程(案)－R19

資料 No.23-3-1　第 7 章の目次(案)

資料 No.23-3-2-1　7.2.3.1 (9) アンカー部の許容応力－分科会コメント反映版

資料 No.23-3-2-2　同上　コメントへの回答(案)

資料 No.23-3-2-3　同上　建物･構築物検討会からのコメント

資料 No.23-3-3-1　附属書 7.3　5.2.6 平底円筒形貯水タンクの座屈設計法 (本文＋解説)案

資料 No.23-3-3-2　同上　検討会(2/16)コメントへの回答(案)

５．議事

（１）出席者及び前回議事録（案）の確認

事務局より､本日の代理出席者は 5 名であり､代理出席者については規約に基づき原主査の承認を頂いた。また、代理出席を含む出席委員は 18 名であり、規約上、決議に際して求められる委員総数の２／３以上の出席であることが確認された。

また、事務局より前回議事録（案）の紹介を行い、出席者全員の賛成で了承された。なお、植田幹事より議事録の内容について、以下の補足説明があった。

・5.(5)の不等号について、Word の記号･特殊記号には≦と≤ の両方があるが、Word の数式エディタには ≤ しかない。なお、JSME 設計･建設規格は≦を使用している。

・5.(7)の建屋の層数を表す記号 N について、第 6 章 建物･構築物の耐震設計 では建屋の層数が規定に現れないので、第 6 章と第 7 章で建屋の層数に違った記号を使うということは起きない。

・5.(9)の著作権について、第 7 章は AIJ の式を引用しているので、文案が定まった段階(公衆審査段階)で、日本電気協会から日本建築学会に著作権の取扱いについて申し入れをすることになろう。

（２）JEAG4601 改定作業の今後の構想

資料 No.23-2 により第７章 改定案の審議工程(案)について説明が行われた。改定文案の仕様規程化と編集上の修正および参考資料の整備を夏休みまでに終わらせ、９月の原子力規格委員会に出す方向で作業を進めることを確認した。

（３）第７章の目次（案）

資料 No.23-3-1 により、第７章の目次（案）の紹介が行われた。コメント箇所を修正し、耐震設計分科会に諮ることとした。

主なコメントを以下に示す。

・7.8.5 のタイトルを　配管　→　機器　とする。

（４）7.2.3.1(9)アンカー部の許容応力

資料 No.23-3-2-1～3 により、アンカー部の許容応力について説明が行われた。2 月 28 日の耐震設計分科会において柴田分科会長より、コンクリート部分の規定について建築側でレビューするよう指示があり、それを受けて建物・構築物検討会から機器・配管系検討会にレビュー結果とコメントが提示され、コメント対応等修正部分について審議の結果、特にコメントはなく、本修文案を耐震設計分科会に諮ることとした。

主なコメントを以下に示す。

・(9)の初めの部分に、鋼板コンクリート構造機器支持定着部は SC 規程によるとの規定を挿入したが、SC 規程ができることを前提としている旨を脚注に記載する。

・表 7.2.3.1-17 で、許容支圧応力度の式の表示、本来[　　]であるべきところ、⌊　⌋になっている。

・【解説】(7)a. の２行目、鉄筋コンクリート構造計算規準に年版(1999 年)を記入する。

・【解説】(9)a.の２行目、各種合成構造設計指針に年版(1985 年)を記入する。

（５）附属書 7.3　5.2.6　平底円筒形貯水タンクの座屈設計法

資料 No.23-3-3-1,2 により、附属書 7.3　5.2.6　平底円筒形貯水タンクの座屈設計法について説明が行われ審議した。コメント箇所についての修文案を幹事が作成して、事務局より各委員にメールにて確認を行い、了承されれば、その修文案を耐震設計分科会に諮ることとした。

主なコメントを以下に示す。

・附図 5.2.6-1 の評価手順図で、左下のボックス内、作用する荷重 → 評価用荷重　とする。

・(6)b.の文は、変更前の案をベースに、技術的に間違っている”重畳させたものとの和とし”を適切に正し、かつ FEM 解析も選択肢であることを明確にした文に修正する。また、関連する解説を付ける。

（６）その他

次回開催は、５月１８日（金）午後とした。

以上